

高等学校 1 年 情報 A 学習指導案

「クリティカルシンキングを使った情報の信ぴょう性について」

高等学校 第 1 学年 情報 A 学習指導案

日 時：平成 23 年 10 月 20 日（木）
場 所：済々黌高等学校 第 1 学年教室
授業者：教諭 河津 辰巳

1 単元名

わたしたちと情報社会 情報の信ぴょう性

2 単元について

(1) 単元のねらい

誰でもインターネット上で情報を発信できる昨今では、専門知識を持たない素人が情報を発信していることが多い。また、インターネットに限らず、テレビや新聞などその道に精通している発行者でも、誤った情報や偏った価値観をメディアを通じて発信することもある。そのように氾濫する情報の中から、正しく情報を読み取る判断力が求められる。

この単元では、Web ページにおける情報の信ぴょう性の確認方法を知ることを通して、適切な判断をするための“批判的な見方”の必要性について考えさせたい。

(2) 系統について

インターネットを通して、様々な情報を得るだけでなく、簡単に情報を発信できるようになった。掲示板への投稿から、SNS での情報の共有など、リアルタイムで相互に情報交換ができる。

Web ページの製作を通して、まずは著作権を保護する立場で物事を考えられるようにしたい。そして、自分が発信する情報に責任を持ち、正しい知識と判断力を持って行動できる態度を育てたい。

(3) 生徒の実態について（在籍数 42 名）

生徒のほとんどが、自分専用の携帯電話を所持している。真面目で素直な生徒ほど、そこから得られる情報に惑わされる可能性があり、SNS を通じて知り合った顔も知らない相手と会ったり、架空請求が来た場合に掲載されたメールアドレスにメールをしたりするなど、危険と隣り合わせである。

機器の使い方には熟知していても、正しい判断ができない未熟な部分がある生徒もおり、授業や学校生活を通して、指導していく必要がある。

(4) 指導にあたって

ア ネットワークの発達と、それに伴う様々な問題があることを理解させる。

イ 情報の信ぴょう性を確認するための、批判的な捉え方について知り、正しい判断ができる力を養う。

(5) 情報モラル教育の視点から

- ア 噂話や不確かな情報があふれていることを知り、情報に対する正しい判断力を身につけさせる。
- イ 情報を発信する立場として、知識を持ち、客観的な視点で物事を捉える態度を育成する。

(6) 人権教育の視点

- ア 何気ない言動が、他人を深く傷つけさせることを知らせる。

(7) 指導計画

- 第1次 個人情報保護 1時間
- 第2次 知的財産権 2時間
- 第3次 情報の信ぴょう性 1時間 本時

5 本時の学習

(1) ねらい

情報の表現による印象の違いに気付き、批判的に考えることができる。

(2) 展 開

過程	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点と評価
導入 5分	1 YouTube や Wikipedia の情報源はどこか。 2 新聞やテレビの情報源は何か。 3 両者の違いは何か。共通点は何か。	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の人が投稿しているものだと認識する。 ・調査や取材で得られた情報だという認識。 ・違いは情報の確かさ。共通点はなかなか答えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事例を取り上げ、興味を持たせる。 【関心・意欲・態度】 ・無理に答えを出させず、考えるきっかけをつくる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 社会にあふれる情報は、誰かが発信していることを認識する。 </div>			
展開 40分	4 クリティカルシンキングについてスライドを通して説明する。 5 4コママンガをスライドで流し、オチを考え、図示させる。 6 新聞記事をプリントで配布し、作者の意図が読み取れるところにアンダーラインを引かせる。 7 アンダーラインがどこに引かれたか問う。 8 別の見方、考え方はないか考えさせ、周囲で話し合わせる。 9 一つの情報だけでなく、様々なメディアから情報を集め、比較するとより正確な情報を得ることができる。 10 Web ページの信ぴょう性を確認する方法を考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて聞くことば。 ・簡単な絵を描き、4コママンガを完成させる。 ・記事の内容を深く読むことに注意をとられる。 ・具体的に説明する。 ・お互いの意見を話し合う。 ・新聞やテレビの情報が必ずしも正確ではなく、強調の仕方や捉え方の違いで、受け取り方も変わる。 ・周囲と話しながら、考え出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・批判的な考え方は、必ずしもマイナスのイメージではないことを説明する。 ・固定概念の強さを認識させる。 ・深く考えさせるのではなく、直感的に別の考えもできるだろうところを見つけさせる。 ・意欲的に答える。 ・別の見方や考え方がないか話し合う。 ・クロスチェックについて知らせる。 ・よく考えているか。
終末 5分	11 「メディアスクラム」の記事を読ませる。 12 発信される情報の捉え方について考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣に読み込む。 ・新聞やテレビも、偏った情報がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極力事前の情報を少なくし、客観的に読ませる。 ・発信する情報には責任を持つこと、世の中の情報を批判的に捉えなくてはいけないことを考えさせる。